ひとがまちをつくる

人口減少、少子高齢化。社会的な構造の変化によって沼津のまちもまた日々変わっています。そんな中、空き家や空き店舗などの使われていない空間に創意や工夫をプラスし、新たな使い方によって再生を図る取り組みが「リノベーションまちづくり」です。その主役は行政ではなく、沼津のまちをより楽しく、より魅力的にしたいという想いを持った人やそこに住む人、営む人たちです。

市ではこのような民間の人たちの活動を支援し、公民連携のまちづくりを推進しています。今回の特集では着実に実を結びつつあるリノベーションまちづくりの担い手として活躍している人たちの活動や想いに迫ります。

問まちづくり政策課
☎055・934・4886

まちがワクワク

上土町の八百屋 REFS（レフズ）を切り盛りする小松浩二さん。小松さんは世界各国を旅して、自身のまちに誇りを持つ人たちとの出会いから、常にこの沼津のまちをどう活かし、どう楽しむかを考えています。夜の商店街を楽しむ「ナイトマーケット」などのイベントを手がけ、沼津自慢フェスタの実行委員としても奮闘するなど、八百屋の枠を越え、まちに賑わいをもたらす多くの事業に取り組んでいます。

さらに、持続性のある日常の賑わいを生み出すために、かねてから考えていた使われていない不動産を有効活用することで地域の価値を高めることにも挑戦。一般社団法人 lanescape（レーンスケイプ）を立ち上げ、リノベーションまちづくりを推進している市と連携を図りながらまちづくりに取り組んでいます。

「私たちはオーナーから不動産を借り受け、リノベーションをして事業をやりたい人に貸す転貸を主な事業としています。物件ひとつでまちを考えるのではなく徒歩5分圏内のエリアを包括的にリノベーションし、まちを盛り上げていくことに挑戦しています」と教えてくれました。

lanescape が扱う物件のひとつが、新仲見世商店街にあるテレビのイマイの2階。長い間物置として眠っていた空間に新たな命を吹き込むプロジェクトです。入居を予定しているのは、都内でIT企業に勤めながら、ダンス講師をしていた沼津出身の小泉奈々美さん。「大好きな沼津でただダンスを教えるだけでなく、人と人とを繋ぐ場所を創りたい。私がダンスを通じて得た想いを、多くの人に届けたいと思い始めたんです。商店街にあるこの場所は条件にぴったりですし、オーナーのまちに対する熱い想いも決め手です。内装工事や契約、交渉ごとなど素人の私には難しいことも小松さんたちが親身に相談に乗ってくれて、とても心強いです。この場所がきっかけでまちが盛り上がり、いつかアーケードの下、みんなでダンスができたらいいな」と笑います。

オーナーの今井俊之さんは「小松くんを信頼しているし、小泉さんの夢も応援しているよ。商店街に笑顔が増えたらいいね」とリノベーションまちづくりに期待を寄せます。

小松さんは「今ある風景とこれからの風景を繋げていきたい。シャッターが降りてしまっている建物も、次はどんなお店がオープンするんだろうってワクワクしてもらえたら嬉しいです。直接何かを始めるだけじゃなく、一緒にワクワクすることもまちをつくっていくことになるんじゃないかと思います」と教えてくれました。

まちに対して様々な想いを持つ人が深く関わることで相乗効果が生まれています。リノベーションまちづくりとは、建物を改修するだけでなく、これまでにない魅力をプラスし、楽しく使っていくことでまちを元気にする取り組みです。

左から）小泉奈々美さん、小松浩二さん、今井俊之さん

不動産オーナーの想い

今井俊之さん

「空いているスペースにまた活気が戻るのは嬉しいね。建物もきっと喜んでいると思う。入居者と1対1でなく、間に lanescape がいることで安心して貸すことができるよ」

「沼津のためになるなら喜んで貸し出すよ。若い人たちの発想は今までにない試みで面白い。街中に川が流れるこの景色が賑わいで溢れることを期待しているよ」

濱野弘雄さん

lanescape の手がける物件

完成イメージ

新仲見世商店街うるわしビルの2階にクリエイターたちのシェアオフィス「NUMAZU DESIGN CENTER」が今秋に開設予定。デザイナーの大木真実さんを中心にクリエイティブの発信地になることが期待されます。

テレビのイマイの2階。小泉さんたちが主宰するダンス&カルチャースクールがオープンする予定。ペアダンスのレッスンだけでなく英会話教室等も行われ文化交流の場を作ります。

御成橋のすぐそばにある、蔵のある住宅がまちやど「魚町蔵ノ上」として8月から営業開始。中心市街地にありながら、狩野川からの心地よい風を受け、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。